

2026 年度入学者用 入学前教育案内

BEtheONE
“かけがえのない存在”たれ！

羽衣国際大学

HAGOROMO University of International Studies

共通教育開発センター
Center for Student Development

TEL 072-242-8300

2026年度入学予定の皆様

合格おめでとうございます。さて、羽衣国際大学では、大学4年間を充実して過ごすための準備として、入学前教育を実施しています。課題は、全学生を対象として実施するものと学科独自に実施するものがあります。

それぞれに実施する内容が違いますので、自分が所属する学科のページをしっかり確認して、課題に取り組んでください。

【全学部学科共通課題】

- ① HAGO-Learning（全員）
- ② ブックレビュー（書評）（全員）
- ③ 高大接続英語（希望者のみ）

【学科別課題】

- ④ 学科毎に分かれた課題があります（全員）※入学予定の学科の課題をご確認ください。

詳しくは課題ダウンロードのリストからそれぞれの課題の説明をお読みください。

課題ごとに決められた締切を守り、課題を終わらせましょう。

「オンキャンパス」と示しているのが大学で実施するもので、「オフキャンパス」と示しているのが大学外（自宅など）で実施するものです。分からないうがあれば、下記の方法でお問い合わせください。

○課題に関する問い合わせについて

質問がありお問い合わせいただく際は以下の点を整理してご連絡ください。

質問内容によっては、回答に多少時間がかかる場合もあります。

1. 受験番号

2. 学科・コース

3. 氏名

4. 何に対しての質問か？

- ・e-Learning に関すること
- ・ブックレビュー（書評）に関すること
- ・高大接続英語に関すること
- ・（現代社会学部）課題レポートに関すること
- ・（現代社会学部）集中講座に関すること
- ・（食物栄養学科）通信添削に関すること
- ・（食物栄養学科）質問対応日に関すること
- ・（食物栄養学科）集中講座に関すること
- ・（人間生活学科）課題レポートに関すること

5. 質問の内容は？

〈入学前教育に関するお問い合わせ先〉

羽衣国際大学

共通教育開発センター

課題ダウンロードページ下部のお問い合わせフォーム

もしくは入学手続き公式LINE

をご利用ください。

お電話をご希望の場合は Tel 072-242-8300まで

大学に入学する前に知っておこう！

高校生と大学生の違い

大学の授業や試験は高校とは大きく異なります。大学では、自分の興味・関心・目的に合わせて授業を選びます。また、「自ら学ぶ姿勢」を持っていることを前提に授業が行われます。高校と大学の違いを理解することが、大学生活の第一歩です。

初等教育（小学校）→児童 中等教育（中学校・高等学校）→生徒 高等教育→学生

大学の学びは自分でデザインする

高校まではほとんどの授業が、教室で先生と生徒が対面する一斉授業の形式です。大学では、目的や内容によって授業の形式も異なります。大教室で学生が先生の話を一斉に聞く講義だけでなく、少人数クラスでのグループワークやディスカッション（討論）なども行われます。

また、大学では一部の資格課程を除き、自らの意思で時間割を決めなければなりません。「自分は、大学で何を学び、どのような力を身に付けたいのか」を考えながら、4年間の学びをデザイン（どの科目を履修するのか）する必要があります。履修登録の方法は、入学後履修ガイダンスで説明します。



高校と大学における授業の違い

	今までのスタイル【高校】	これからのスタイル【大学】
授業の時間	原則 50 分、登校する時間が決まっている。	原則 90 分、自分の時間割に合わせ授業開始前までに教室に行く。自分の時間割により登校する時間が変わる。
授業の内容	教科書の流れに沿って進められる。	先生が独自に組み立てた内容で進む。テキスト指定やプリント配布など授業により異なる。
教える教員	「教える」プロとして教員免許を持っている。	「教育・研究」のプロとして、自分の専門分野を学生に教える。
授業の人数及び場所	教員 1 名、生徒 40 名程度。多くの場合、ホームルーム教室で行われる。	授業の形式によって異なる。大教室の講義では教員 1 人に学生が 100 名以上という場合も。逆に少人数クラスで指導の先生が複数つくこともある。多くの場合、授業ごとに教室が変わる。
求められる姿勢	教えられた知識を身につけ、正しく問題を読み解き、正解を出すことが求められる。	学生の主体的な姿勢が必要とされる。教えられた情報を自分の知識とするだけでなく、自分で考え、自分の意見を持つことが必要。
授業の形式	教員が黒板に授業内容の要点を書いてくれる講義形式の授業が多い。板書されたことをノートに書き理解する。	講義形式もあれば、参加型・実践型の授業もある。また、アンケート調査や資料収集を行うフィールドワーク形式や、プレゼンテーション（発表）やディスカッション（討論）を行いながらチームの結論を導き出すグループワーク形式なども。10~20 人程度の学生が自ら選択した課題の研究に当たるゼミナール（演習）形式の授業も登場する。



試験でも「自分の意見」が求められる

大学では試験の形式もバラエティに富んでいます。高校までのような1つの正解だけを求められるテストや、レポート提出、プレゼンテーションといった自分の考えや意見を問われる形式の試験などがあります。

1つの明解な答えを出すのではなく、自分なりの視点で考え方を理論的に説明し、読み手や聞き手に伝える能力が求められます。そのため、授業内容をしっかり把握しておくだけでなく、それに対する自分の意見と自分の意見を支える理由・論拠を持つ訓練をしておくといいでしょう。

○大学の試験

暗記だけでは不十分 答えは一つではない 「自分の考え」も評価の対象になる



○論述で自分の意見や視点が求められる

大学の成績は、一問一答形式のテストだけでなく、提出したレポートも評価の重要な対象となります。そのため、自分が課題について調査したこと、考えたことなどをわかりやすく文章で伝える力が求められます。レポートの課題は様々なテーマから出されるので、幅広く知的好奇心を持っていることも重要です。高校時代のように暗記中心の学習ではよい成績につながらないでしょう。

○試験の形式

1 レポート

提出期限までに与えられた課題に対するテーマを設定し、そのテーマについて資料収集・調査・分析をし、結論を導き出し、論述する形式の試験。

2 テスト

試験時間内に、①2~3問の論述問題 ②一問一答のテスト ③実技試験などの課題が与えられ、その場で答える（もしくは実演する）形式の試験。

3発表、プレゼンテーション

資料を作成し、口頭で調査や研究成果を発表する形式の試験。ゼミナール（演習）、少人数制の授業形式で課されることが多い。

期末にこれらの試験を行うほか、小テストの積み重ねなどで成績が評価されることもある。いろいろな形式があるので、履修登録時にシラバス（授業計画書）でしっかり確認してください。



大学での学びは？

	始まり	学習範囲	方法	ゴール
高校	教員から与えられる	決まっている	教員に教えてもらう	答えは1つ
大学	自分で問題に気づく	決まっていない	自分で考える	答えは1つではないことが多い

参考：(株)ベネッセコーポレーション(編)『スタディスキル』P2~3

